

富山湾における海棲哺乳類の記録（2019年）

著者	南部 久男，西尾 正輝，田島 木綿子，山田 格
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	44
ページ	53-57
発行年	2020-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1989

短 報

富山湾における海棲哺乳類の記録 (2019年)

南部 久男¹⁾, 西尾 正輝^{2)・3)}
田島 木綿子⁴⁾, 山田 格⁴⁾

- ¹⁾ 富山市科学博物館登録ボランティア 939-8084 富山市
西中野町一丁目8-31
²⁾ 氷見市教育委員会 935-8686 富山県氷見市鞍川1060
³⁾ ひみラボ水族館 935-0113 富山県氷見市惣領1927
⁴⁾ 国立科学博物館動物研究部 305-0005 茨城県つくば市
天久保4-1-1

Records of Marine Mammal in Toyama Bay, Sea of Japan, 2019

Hisao Nambu¹⁾, Masaki Nishio^{2)・3)}
Yuko Tajima⁴⁾ and Tadasu K. Yamada⁴⁾

- ¹⁾ Toyama Science Museum volunteer, 1-8-31
Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
²⁾ Board of Education of Himi City, 1060 Kurakawa,
Himi-shi, Toyama 935-8686, Japan
³⁾ Himi-lab Aquarium, 1927 Soryo, Himi-shi, Toyama
935-0113, Japan
⁴⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-
0005, Japan

1. はじめに

富山湾（主に富山県側）の海棲哺乳類（鯨類及び鰭脚類）については筆者らにより、1999年から漂着調査等が継続的に行なわれている（南部, 2009; 南部・山田, 2006; 南部ら, 2000, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008; 南部ら, 2010, 2011, 2012, 2013; 南部ら, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019; 関ら, 2005）。本稿では2019年に富山湾で確認された鯨類と鰭脚類（オットセイ）について報告する。なお、オットセイについては、2019年の事例の他に2016年の事例についても報告する。

2. 方法

鯨類の漂着については、情報を得次第、出来る限り現地での体長の計測、性別、体表から観察できる損傷状況の確認、写真撮影等を行った。また、関係機関からの情報収集等を行い、新聞記事からも情報収集を行った。鰭

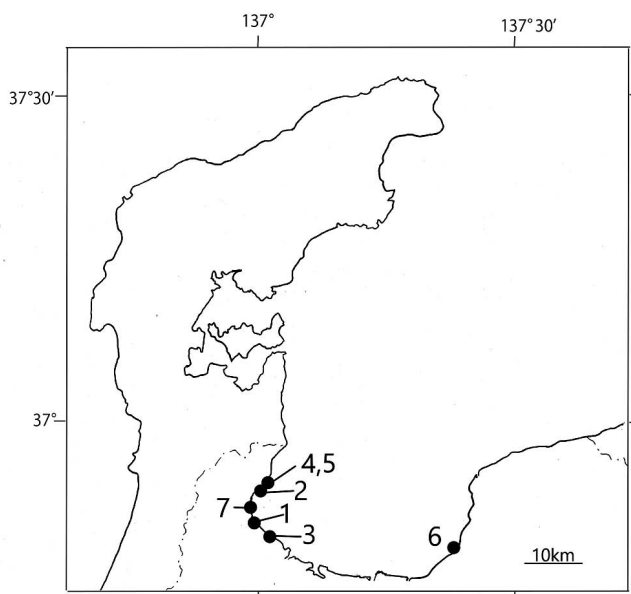


図1. 2019年の富山湾における鯨類の確認地点。1, 氷見市窪; 2, 氷見市藪田; 3, 高岡市伊勢領; 4, 氷見市宇波; 5, 氷見市泊; 6, 魚津市村木定坊割沖; 7, 氷見市南大町。

脚類については、インターネット（YouTube）から情報収集を行った。

3. 結果及び考察

2019年に富山湾で確認した鯨類は、ナガスクジラ科のミンククジラ、マイルカ科のカマイルカであった。鰭脚類では2019年と2016年にオットセイが確認された。

1. ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata*

1 例目

【発見日】2019年5月27日

【現地調査】5月27日、西尾正輝現地確認。

【発見場所】氷見市窪（図1-1, 図2）。

【発見状況】海岸の砂浜に打ちあがる。長さ約3.3 m（高岡土木センター氷見土木事務所工務課河川班による）。

メス。大きさ、ウネの長さ、畝の幅、頭部の形状等からミンククジラと考えられる。クジラの背や右側腹部にはサメのようなものに齧られた大小さまざまな咬傷痕が確認できた。背には比較的大きな丸い咬傷痕と小さな咬傷痕があり（図2C）、右側腹部には楕円形の大きな咬傷痕がある（図2B）。右側尾柄部付近には体幹筋の腱が露出するような大きな咬傷痕がある（図2C）。

【備考】高岡土木センター氷見土木事務所河川班から漂着情報を得た。本漂着個体は、2019年5月28日付け富山新聞に写真付きで紹介され、その概要は「体長約3 mで、午後4時40分頃ジョギング中の住民が発見した。」と記されている。

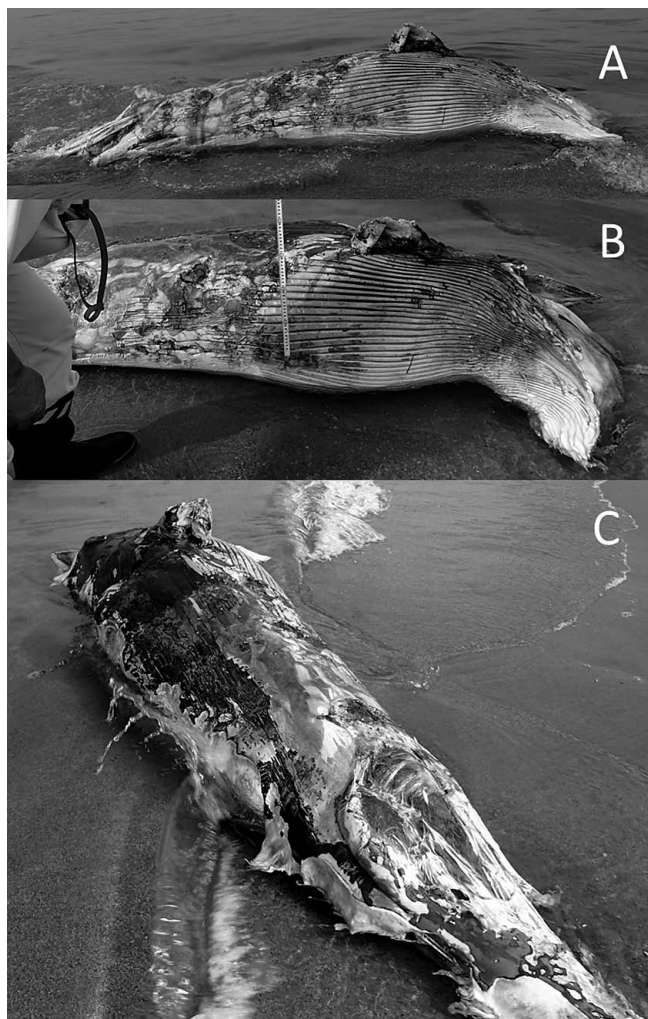


図2. ミンククジラ(メス). 氷見市窪. 2019年5月27日. 長さ約3.3 m. A, 腹面側; B, 覆面側拡大; C, 背と右体側. 富山県高岡土木センター氷見土木事務所工務課河川班提供.



図3. ミンククジラ. 2019年6月7日. 氷見市藪田. 腹面側. 氷見市環境防犯課提供.

2 例目

【発見日】2019年6月7日

【現地調査】6月7日, 西尾正輝現地確認.

【発見場所】氷見市藪田(図1-2, 図3)

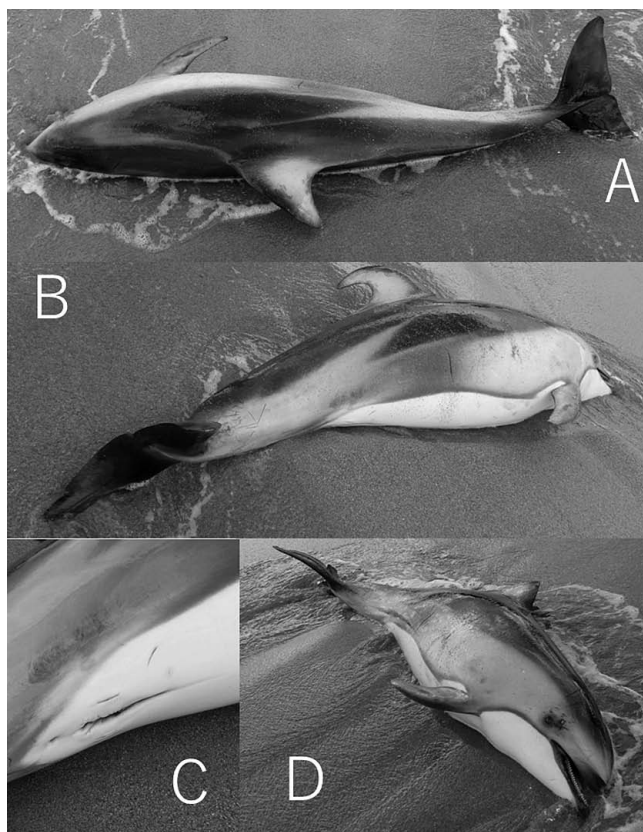


図4. カマイルカ(メス). 2019年4月8日. 高岡市伊勢領. A, 背面側; B, 右体側; C, 生殖溝周辺; D, 右体側. 富山県高岡土木センター工務第二課海岸班提供.

【発見状況】波消しブロック脇に置かれた岩にひっかかる. 腐敗が激しく, 上顎骨の先端が剥き出しになっている. ウネの一部が残っている. 残っている体の長さは3 m程と思われる. 大きさやウネがあること, 上顎骨の形からミンククジラと考えられる.

【備考】氷見市環境防犯課から情報を得た.

2. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

1 例目

【発見日】2019年4月8日

【発見場所】高岡市伊勢領(図1-3, 図4)

【発見状況】砂浜の波打ち際で漂う. 体長不明. メス. 写真より死後まもない新鮮な個体である.

【備考】富山県高岡土木センター工務第二課海岸班から情報を得た.

2 例目

【発見日】2019年4月10日

【現地調査】4月10日, 西尾正輝現地確認.

【発見場所】氷見市宇波(図1-4, 図5)

【発見状況】砂浜の波打ち際に横たわる. 体長183 cmのオス. 死後まもない新鮮な個体である.

【備考】氷見市水産振興課から情報を得た。

3 例目

【発見日】2019年4月11日

【現地調査】4月11日，西尾正輝現地確認。

【発見場所】氷見市泊（図1-5，図6）

【発見状況】海岸に置かれた波がかかる岩の上に横たわる。オス。死後まもない新鮮な個体である。

【備考】氷見市水産振興課から情報を得た。

4 例目

2019年5月5日魚津市村木定坊割沿岸でカマイルカの群が目撃され（図1-6），北日本新聞やYouTubeに公開されている。

2019年5月6日付けの北日本新聞には写真とともに紹介されている。その概要は，「2019年5月5日，6時半頃，魚津市道の駅付近（図1-6）の海にイルカが出現し，150頭の群は1時間半ほどで姿が見えなくなった。」と記されている。

YouTube（degitalnomura, 2019）に上述の北日本新聞と同一の群れの映像が公開され，「2019年5月5日，6:30～8:00ごろまで，富山湾にカマイルカの大量が迷い込んできた。」と記されている。

北日本新聞に掲載された海面上に飛び出たイルカ2頭の写真やYouTubeの映像に写っているイルカの背ビレの形や体側の模様等からカマイルカと同定される。また，YouTubeの映像から大きな群れが遊泳していることが分かる。

3. 種不明

【発見日】2019年6月10日

【発見者】住民発見

【現地調査】6月11日，南部久男現地確認。

【発見場所】氷見市南大町（図1-7，図7）。

【発見状況】海岸の砂浜に骨が埋まる。骨全体の長さ約1.5mで，尾の骨は無い。マイルカ科の一種と考えられる。

【備考】氷見市環境防犯課から情報を得た。海岸清掃中の住民から臭いがするとの連絡が氷見市にあり，同市環境防犯課が現地確認を行った。

4. オットセイ *Callorhinus ursinus*

日本海で近年記録のある鰐脚類には，アシカ科2種（トドとオットセイ），セイウチ科セイウチ，アザラシ科4種（ゴマフアザラシ，ワモンアザラシ，クラカケザラシ，アゴヒゲアザラシ）が知られている（国立科学博物館，2020）。2019年と2016年に富山湾で撮影された鰐脚類2件2個体がYouTubeに公開されているパーク旅行チャンネル



図5. カマイルカ(オス)。氷見市宇波。2019年4月10日
A, 右胴部；B, 生殖溝周辺。西尾正輝撮影。



図6. カマイルカ(オス)。氷見市泊。2019年4月11日。
腹面側。氷見市水産振興課提供。



図7. 種不明(マイルカ科の一種)。2019年6月10日。
氷見市南大町。氷見市環境防犯課提供。

ル，2019；小端猛，2016）。これらの個体は鼻づらが先細りでやや尖っており，比較的長い顕著な耳介をもち，オットセイの特徴(トマスら，1999)を備えている。

1 例目

富山湾氷見市沖で撮影された映像である（パーク旅行チャンネル, 2019. 2. 10). 撮影日は不明であるものの「先日の晴れた日、富山湾（氷見沖）でオットセイを発見し、…」とのコメントがあり、2019年1月から2月初め頃に富山湾氷見市沖で撮影された可能性がある。近距離で撮影され、水面をぐるぐると回り、時々胸鰭をあげるようなしぐさをしている。

2 例目

2016年4月16日に富山湾で撮影された映像である（小端, 2016. 4. 17). 撮影海域は不明である。耳介があることから、オットセイと考えられる。近距離で撮影され、海面で魚を咥え、振り回し、魚体の一部を食いちぎり食べている。咥えている魚はサケガシラと考えられる。

4. まとめ

2019年は鯨類では、ミンククジラとカマイルカが確認され、鰭脚類ではオットセイが確認された。いずれも富山湾では既知種である。

近年、富山湾（石川県沖を含む）で記録のあるナガスクジラ属には、ミンククジラ、ナガスクジラ（*Balaenoptera physalus*）、ツノシマクジラ（*B. omurai*）が知られる。ナガスクジラは、2011年5月26日に、石川県七尾市鹿渡島沖7.5 kmの定置網で体長6 mの個体が混獲されているに過ぎない（石川ら, 2013）。ツノシマクジラと思われる体長約10 mの個体が2018年7月20日庄川河口沖で目撃されている（南部ら, 2019）。

一方ミンククジラは、富山湾（富山県及び石川県側）では年中定置網で混獲が見られ、その海域は富山湾西部に多く、富山県側では氷見市、石川県側では、能都町及び七尾市に多い（石川ら, 2013）。2002～2006年に富山湾（富山県及び石川県）で混獲された125個体のうち、雌雄及び体長が判明している個体116個体の体長は、オスで4.9 m（中央値）（N=44, 最小2.5 m～最大7.7 m）で、メスで4.65 m（中央値）（N=72, 最小3 m～最大7.8 m）であり、オスでは体長4 m以上6 m未満が66%, メスでは、体長4 m以上6 m未満が78%を占めている（石川ら, 2013）。富山県でのミンククジラの漂着は、県西部で報告があり、2001年10月1日に氷見市の海岸に死亡個体（オス、吻部欠損、全長約4.7 m）が漂着し（南部ら, 2002）、2003年12月2日に高岡市の海岸に死亡個体（オス、体長約5.15 m）が（南部ら, 2004）、2018年6月10日には氷見市の海岸に死亡個体（雌雄不明、頭部と尾欠損、長さ約4.2 m）が漂着している（南部ら, 2019）。頭部のみが漂着することもあり、2009年8月1日には氷見市の海

岸に1個体（骨が剥きだしになる）、同年8月15日には射水市新湊地域に1個体（ほぼ骨の状態）が漂着している（南部ら, 2010）。今回の2個体も体長は3～4 m程と推測され、定置網で混獲される個体の体長の範囲内と考えられる。今回の1例目の個体には大小さまざまな咬傷痕が確認された。2018年6月10日に氷見市で漂着したミンククジラにも大小の咬傷痕跡が確認され（南部ら, 2019）、サメによる咬傷痕の可能性が指摘されている。今回の個体もサメによる咬傷痕の可能性がある。上述のように富山湾西部にミンククジラが確認されていることから、なんらかのトラブルで死亡した個体が海岸に流れつくものと思われ、漂流中にサメ等により、体を齧られたと考えられる。

カマイルカは筆者らのこれまでの調査では富山湾に最も多く来遊するイルカで、大きな群れで目撃されることもある。12月から6月の範囲で目撃や死亡漂着個体が記録され、今回記録された月もこの範囲に含まれる。漂着個体は県西部（氷見市、高岡市）を中心に毎年のように発見される。2019年は4月10日～11日にかけ、氷見市から高岡の海岸で死亡まもない個体が3個体確認された。2006年5月8日～15日には、富山湾西部の高岡市雨晴から氷見市島尾の狭い範囲で、カマイルカの漂着（死亡）が4例4個体確認されている（南部ら, 2007）。この年、4月下旬頃から5月初旬頃には、雨晴沖から氷見市沖に、カマイルカの大きな群れが来遊しており、何らかの原因により相次いで死亡し、漂着したものと考えられている。2019年も、富山県西部（氷見市や高岡市沿岸）にカマイルカの群れが来遊し、何らかの原因で死亡し、流れついたものと思われる。

富山湾（石川県側含む）の鰭脚類については、アザラシ科のゴマフアザラシとワモンアザラシ、アシカ科のトドとオットセイが記録されている（国立科学博物館, 2020；南部ら, 2000, 2011, 2015）。その内、オットセイについては、富山湾の記録は少なく、石川県側では能登半島の先端の珠洲市で、2006年5月14日に1頭（生存）、2009年1月22日に1頭（漂着、死亡）、2017年4月20日に1頭（目視）が記録されている（国立科学博物館, 2020）。富山県では氷見市で1999年5月13日に1個体（漂着、死亡）（南部ら, 2000）と2010年3月10日～12日に1個体（衰弱個体）（南部ら, 2011）が氷見市の海岸で発見されている。今回は、2例とも海面で撮影され、ともに活発に動いており、その内1個体は魚を食べている。これらの事例は、富山湾にもオットセイが来遊し、海上で摂餌をしながら活動することがあることを示しており、今後の海上での情報収集により、富山湾での生息実態が分かってくるものと思われる。

5. 謝辞

富山県高岡土木センター工務第二課海岸班, 富山県高岡土木センター氷見土木事務所工務課河川班, 氷見市水産振興課, 氷見市環境防犯課には貴重な情報及び写真提供頂いた。関係各位に心よりお礼申し上げます。

6. 引用文献

- digitalnomura. 2019. 5. 6. カマイルカの大群__富山湾のあちこちで__2019 05 05. <https://www.youtube.com/watch?v=dxGt02dJFS0>. 2020年2月16日閲覧。
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘(編), 2013. 日本沿岸のストランディングレコード (1901~2012) 下関鯨類研究室報告. No.1. 314pp.
- 国立科学博物館, 2020. 海棲哺乳類ストランディングデータベース (更新日: 2018/02/27). <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php>. 2020年2月28日閲覧。
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録 (2008). 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類 (Cetaceans) の記録 (2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25): 129-132.
- 南部久男・石川 創・山田格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録 (2006年). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
- 南部久男・石川 創・山田格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録 (2007年). 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.
- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田格・関東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, (27): 75-78.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富山市科学文化センター研究報告, (26): 145-147.
- 南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, (34): 141-144.
- 南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における鯨類の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, (40): 99-101.
- 南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, (39): 55-60.
- 南部久男・田島木綿子・荻野みちる・倉持利明・山田 格・田中 豊, 2000. 富山湾氷見市の海岸に漂着したオットセイについて. 富山市科学文化センター研究報告 (23): 169-171.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 91-94.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35): 103-105.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012). 富山市科学博物館研究報告, (37): 109-110.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報告, (41): 67-70.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2018. 富山湾における鯨類の記録 (2017年). 富山市科学博物館研究報告, (42): 65-67.
- 南部久男・田島木綿子・山田格, 2019. 富山湾における鯨類の記録 (2018年). 富山市科学博物館研究報告, (43): 71-76.
- 南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29): 113-114.
- 小端 猛. 2016.4.17. 2016.4.16富山湾でリュウグウノツカイ?を食べるアザラシ. https://www.youtube.com/watch?v=-Hj_NBltJbQ. 2020年2月24日閲覧。
- パーク旅行チャンネル. 2019.2.10. 富山湾でオットセイ発見!! https://www.youtube.com/watch?v=8fiGCd2y_fU. 2020年2月24日閲覧。
- 関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創. 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28): 113-122.
- トマス・A・ジェファソン, スティーブンレザウッド, マーク・A・レザウッド (山田 格訳). 1999. 海の哺乳類F A O種同定ガイド. 336pp. NTT出版. 東京.

